

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	65	大学等名	兵庫県立大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・学生が共通して身に付けるべき「基礎力」を定義し、「カリキュラム・マトリックス」を開発し、GPA、TOEIC、PROG アセスメントテストに基づき学修成果を評価するという一般的なアプローチがとられており、取組が手順を追って着実に進められている。また、成績評価の客観性を確保するために、「基礎力ルーブリック」も開発されていることから評価できる。
- ・事業の実施体制については、学長のリーダーシップに基づいた組織体制がとられ、事業計画に参画する教員の割合が100%に達したことは評価できる。また、PDCA サイクル稼働による内部質保証、自己点検評価、外部評価の仕組みも整備されていることも評価できる。
- ・事業成果の普及については、パンフレット、ホームページ、シンポジウムによる広報活動が想定されている。加えて、教育工学会での成果発表も予定されていることから評価できる。
- ・IR 室の設置や卒業生調査の実施は、本事業と関連する総合的な大学教育改革の取組と言え、評価できる。今後は、他大学における取組実績等も参照しながら取り組むことが期待される。

<改善を要する点>

- ・本大学で取り組まれてきた改革と、本事業との関連をより明確にする必要がある。
- ・成績評価の客観性確保のため、基礎力ルーブリックが教員にどのように活用され、なぜ「基礎力」を測定する指標として TOEIC や PROG を採用したのか説明する必要がある。
- ・本取組は、環境人間学部を基盤に展開されているが、環境人間学部の3つのポリシーや専門科目の履修を通して学生が習得する固有の知識・能力と、全学的な「基礎力」との関係が不明確であり、整理する必要がある。
- ・「卒業時における質保証」について、「基礎力」の観点だけではなく、専門科目を含むカリキュラムの体系化、学問分野の知識・能力の習得等を加味する必要はないか。これらの観点について、説明が必要である。
- ・ジェネリックスキルの達成度を成績評価、外部テストで測定する取組だけでは、他大学にとって参照すべき先駆的なモデルになるとは言えないため、更なる検討をする必要がある。